

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成28年7月7日(2016.7.7)

【公開番号】特開2015-42505(P2015-42505A)
 【公開日】平成27年3月5日(2015.3.5)
 【年通号数】公開・登録公報2015-015
 【出願番号】特願2013-174195(P2013-174195)
 【国際特許分類】

B 6 0 J 3/00 (2006.01)

【F I】

B 6 0 J 3/00 H

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月18日(2016.5.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

ばねケース 5 2 は、スプリング 5 1 を收容するため、ばねケース 5 3 側が開口した收容凹部 5 2 c を有している。ばねケース 5 2 の壁部 4 1 側には、軸部材 5 4 の端部 5 4 b を通すため孔部 5 2 b が形成されている。收容凹部 5 2 c の内側面からは、スプリング 5 1 の外側折り返し片 5 1 b を係止するための係止用凸片 5 2 h が外側方向 D 1 1 に向かって延出している。ばねケース 5 2 の側壁部 5 2 e は、ばねケース 5 3 で被われる。ばねケース 5 3 は、ばねケース 5 2 に嵌合して、ばねケース 5 2 の開口を塞ぐ。ばねケース 5 2 , 5 3 には、合成樹脂の射出成形品といった成形品等を用いることができる。軸部材 5 4 の端部 5 4 b は、軸心 A X 1 の外側方向 D 1 1 に向かってばねケース 5 2 の孔部 5 2 b に挿入され、軸心 A X 1 を中心とする回転方向の付勢力をスプリング 5 1 から受ける。軸部材 5 4 の嵌合部 5 4 a を巻取軸 3 1 の一端 3 1 a の孔に圧入すると、軸部材 5 4 と巻取軸 3 1 とが相対移動不能に固定される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

なお、図 1 0 (c) に例示するように、キャップ 6 0 の内周面 6 1 a のうち軸部材の端部 3 6 の外周面 3 6 a に合わせられる部分を外側方向 D 1 1 側に配置し、外周面 3 6 a との間に隙間が形成される部分 6 1 c を内側方向 D 1 2 側に配置してもよい。すると、壁部 4 2 の穴 4 3 に対して壁部 4 2 の内側からキャップ 6 0 を挿入した後にキャップ 6 0 の第二の穴 6 2 に軸部材の端部 3 6 を挿入するとき、軸心 A X 1 からずれた向きの軸部材の端部 3 6 を第二の穴 6 2 に挿入することができる。従って、この場合も、遮蔽装置の組み付け作業性を向上させることが可能になり、組み付け作業性の良い遮蔽装置を提供することができる。